

授業科目名： 現代東アジア特論（韓国） Contemporary East Asia (Korea)	担当教員名： 三村光弘
-----------------------------------------------------------------	-----------------------

選択/必修： 選択	単位数： 2	セメスター： 後	開講言語： 日本語
---------------------	------------------	--------------------	---------------------

ディプロマポリシーとの関連：

国際社会の知識	政策分析能力	英語コミュニケーション能力
●	●	

○授業の到達目標及びテーマ

韓国と北朝鮮の政治、経済、社会、外交について主として日本語で書かれた優れた先行研究にふれ、学界の到達点を確認すると同時に、地域研究における多様な理論と方法論を比較検討し、韓国、北朝鮮に限らず日本・中国・ロシアなど、あるいはそれ以外の自らが研究対象とする地域において応用できるようになる。

○授業の概要

日本・中国・ロシアと並んで「地域・各国研究」の一つとして位置づけられている朝鮮半島（韓国、北朝鮮）について、各分野の基本的な先行研究をサーベイし、その到達点と今後の課題を確認する。本科目は「地域研究の理論と方法」を応用し、他の地域・国とも比較する科目でもある。

本授業においては、韓国と北朝鮮それぞれの政治、経済、社会、外交における主要な論点をほぼ網羅する。具体的には、韓国については権威主義体制からの民主化、民主体制の定着、経済発展と経済危機、中央地方間関係、社会政策、福祉国家、政治制度、選挙政治・民主主義論、外交政策、日韓関係・米韓関係、北朝鮮については政治、経済、社会、外交である。

方法論としては、伝統的な歴史学的アプローチ、近年政治学で主流になっている合理的選択論、政治学と社会学とコラボレーションの可能性、韓国の北朝鮮研究において用いられている内在的接近法や外在的接近法などについて、妥当性や応用の仕方を比較検討する。

なお、テキストを日本語（や英語）で書かれたもの限定するのは、韓国以外の地域・国に関心がある学生の受講を妨げないためである。朝鮮語（韓国語）のリテラシーがある受講生には別途朝鮮語の文献も紹介する。

○授業の方法

- ・授業は日本語で行われる。
- ・受講生は毎回、指定されているテキストの要約（400字）と方法論的な特徴に関する比較分析（1200字）をショート・ペーパー（計1600字）として事前に提出し（講義の1週間前をめぐり）、相互に目を通した上で授業に参加する。
- ・授業では毎回、全ての受講生がショート・ペーパーについて報告した上で、ディスカッションを行う。教員は適時コメントや解説を加える。
- ・最終回には、受講生は自らが研究対象としている地域・国あるいは分野について、サブスタンスと方法論を組み合わせた修士論文の序章（に相当するリサーチ・ペーパー）（6000字）を提出する。

○授業計画

第1回に授業内容の紹介等を行い、第2回以降は以下の7つの項目についてそれぞれ1～3回に分けて進める。

1. 韓国の政治、経済、社会

- (1) 現代韓国政治の概要 (第2回～第3回)
- (2) 歴史的アプローチ (第4回～第5回)
- (4) 社会的アプローチ (第6回～第7回)
- (5) 韓国経済 (第8回～第9回)

2. 北朝鮮の政治、経済、社会

- (1) 北朝鮮政治 (第10回)
- (2) 北朝鮮社会 (第11回)
- (3) 北朝鮮経済 (第12回～第13回)

3. 外交・国際関係

- (1) 韓国の外交と日韓関係 (第14回)
- (2) 北朝鮮の外交と日朝関係 (第15回)

第1回 授業内容の紹介等授業内容の概略、方法等を紹介する。

第2回 現代韓国政治の概要 (1)

日本との比較において、現代韓国政治の特徴を概観する。

- * 康元澤・浅羽祐樹・高選圭編著『日韓政治制度比較』(慶應義塾大学出版会、2015年)
- ・ 木村幹『朝鮮半島をどう見るか』(集英社新書、2004年)
- ・ 文京洙『新・韓国現代史』(岩波新書、2015年)

第3回 現代韓国政治の概要 (2)

日本との関係において、現代韓国政治の特徴を概観する。

- * 木村幹『朝鮮/韓国ナショナリズムと「小国」意識—朝貢国から国民国家へ』(ミネルヴァ書房、2000年)
- ・ 木村幹『歴史問題はどうか語られてきたか』(千倉書房、2020年)

第4回 歴史的アプローチ (1)

権威主義体制下の韓国政治史について概観すると同時に、歴史的アプローチの方法論的特徴について異なる2つの時代を比較しながら理解する。

- * 木村幹『民主化の韓国政治：朴正熙と野党政治家たち 1961～1979』(名古屋大学出版会、2008年)
- ・ 木村幹『韓国における「権威主義的」体制の成立：李承晩政権の崩壊まで』(ミネルヴァ書房、2003年)

第5回 歴史的アプローチ (2)

民主化以降の韓国政治史について概観すると同時に、歴史的アプローチの方法論的特徴を理解する。

- * 崔章集(磯崎典世・出水薫・金洪楹・浅羽祐樹・文京洙訳)『民主化以後の韓国民民主主義：起源と危機』(岩波書店、2012年)
- ・ 文京洙『新・韓国現代史』(岩波新書、2015年)

第6回 社会的アプローチ (1)

韓国の社会政策について概観すると同時に、社会的アプローチの方法論的特徴について理解する。

- * 春木育美『韓国社会の現在超少子化、貧困・孤立化、デジタル化』(中公新書、2020年)
- ・ 大西裕『先進国・韓国の憂鬱』(中公新書、2014年)
- ・ 春木育美・薛東勲編『韓国の少子高齢化と格差社会：日韓比較の視座から』(慶應義塾大学出版

会、2011年)

第7回 社会学的アプローチ (2)

韓国における福祉国家の様態について概観すると同時に、比較研究における韓国事例の位置づけ方についても検討する。

- * 金早雪『韓国・社会保障形成の政治経済学—国家と国民生活の変革』(新幹社、2016年)
- ・ 相馬直子「韓国：家族主義的福祉国家と家族政策」『比較福祉国家：理論・計量・各国事例』(ミネルヴァ書房、2013年、pp. 310-335)

第8回 韓国経済 (1)

韓国政治や民主化の裏でこれらに大きな影響を与えてきた韓国経済について、その成長の過程と現在の姿について概観する。

- * 高安雄一『解説韓国経済』(学文社、2020年)

第9回 韓国経済 (2)

先進国化が進む韓国経済において、どのような問題が提起されているのか、社会学的アプローチにも共通する問題点を認識し、今後の動向について考える基礎を得る。

- * 安倍誠編『低成長時代を迎えた韓国』(アジア経済研究所、2017年)
- ・ 大西裕『先進国・韓国の憂鬱：少子高齢化、経済格差、グローバル化』(中公新書、2014年)

第10回 北朝鮮政治

北朝鮮政治を特徴付ける要素の一つとして注目される指導体制である「首領制」について押さえるとともに、権力の裏付けとなる朝鮮労働党と朝鮮人民軍の関係について考察する。

- * 鐸木昌之『北朝鮮首領制の形成と変容—金日成、金正日から金正恩へ—』(明石書店、2014年)
- ・ 宮本悟『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』(潮書房光人社、2013年)

第11回 北朝鮮社会

日本ではあまり紹介されない北朝鮮社会のあり方、特徴について知ることを通じて、北朝鮮政治が社会に与える影響について考察する。

- * 磯崎敦仁・澤田克己『北朝鮮首領制の形成と変容—金日成、金正日から金正恩へ—』(東洋経済新報社、2017年)
- ・ 伊藤亜人『北朝鮮人民の生活』(弘文堂、2017年)

第12回 北朝鮮経済 (1)

北朝鮮の社会主義体制の基礎となった生産手段の社会的所有がどのように形成され、社会主義計画経済体制が運営されてきたのかを歴史的に考察し、北朝鮮経済の普遍性と特殊性について考察する。

- * 中川雅彦『朝鮮社会主義経済の理想と現実：朝鮮民主主義人民共和国における産業構造と経済管理』(アジア経済研究所、2011年)

第13回 北朝鮮経済 (2)

将来的に政治に大きな影響力を与える可能性のある北朝鮮経済の変化について、主に旧ソ連崩壊以後の変化と今後の展開可能性について考察する。

- * 三村光弘『現代朝鮮経済』(日本評論社、2017年)

第14回 韓国の外交

韓国の外交について概観し、大統領5年単選システム下での外交の特徴を考察する。

* 崔慶原「朝鮮半島の平和体制構築の道程：米朝首脳会談と文在寅政権の仲裁外交」『韓国研究センター年報』第19号（2019年）pp. 67-76.

・ 西野純也「盧武鉉政権の安全保障政策と国内要因：「協力的自主国防」をめぐる機会と制約」『国際安全保障』第33巻第4号（2006年）pp. 11-36.

第15回 北朝鮮の外交

北朝鮮の外交について、単に事実を記述するだけではなく「合理的に」分析する方法について理解する。

* 平岩俊司『北朝鮮は何を考えているのか：金体制の論理を読み解く』（NHK出版、2013年）

・ 道下徳成『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史：1966～2012年』（ミネルヴァ書房、2013年）

○テキスト

授業計画を参照、「*」で表示。そのほとんどは新潟県立大学図書館に所蔵されているか、オンラインで入手可能である。

○参考書・参考資料等

授業計画を参照、「・」で表示。

○学生に対する評価

- ・ 授業に先立ち提出するショート・ペーパー（テキストの要約 400 字＋方法論的特徴に関する比較分析 1200 字＝計 1600 字）：2 点＊14 回＝28 点
- ・ クラス討論への貢献：3 点＊14 回＝42 点
- ・ 最終ペーパー（6000 字）：30 点

○オンライン授業に切り替えた場合の授業形態

- ・ 授業形態：オンライン授業（リアルタイム配信型）
Manaba folio を利用して、授業内レポートおよび授業後レポートを提出する。
- ・ 資料・連絡事項掲載場所：Manaba folio での連絡を主とするほか、授業内に連絡を随時行う。